



SDGs 未来都市

埼玉県

超少子高齢社会に対応したまちづくり ～埼玉版スーパー・シティプロジェクトの推進～

令和5年12月20日

環境部 エネルギー環境課

環境部の紹介

環境部では、環境への負荷が少なく持続的に発展できる社会の構築を目指し、安心・安全な「循環型社会」、生物の多様性に富んだ「自然共生社会」、エネルギー消費の少ない「低炭素社会」の実現に向けた取り組みを行っています。

構成課所

(本庁)

環境政策課 温暖化対策課 エネルギー環境課
大気環境課 水環境課 産業廃棄物指導課
資源循環推進課 みどり自然課

(地域機関)

県内7か所の環境管理事務所
環境科学国際センター 環境整備センター

活躍している職種

一般行政職／化学職

主な業務

- サーキュラーエコノミーの推進
- ネイチャーポジティブの推進
- 工場・事業場のばい煙、粉じん、石綿等の対策
- 水質汚濁防止、騒音規制、振動規制 etc...
に関する事務などを行っています！



※画像は「埼玉県ホームページ」、「令和4年度埼玉県環境白書」から引用

エネルギー環境課の紹介

エネルギー企画担当

- 埼玉版スーパー・シティプロジェクトに関する事

創エネルギー推進担当

- 再生可能エネルギーの普及に関する事
- 水素エネルギーの普及に関する事
- 分散型エネルギーの普及に関する事

住宅等省エネルギー推進担当

- 総務事務に関する事
- 家庭における省エネ・再エネ活用設備の導入支援に関する事
- 住宅用太陽光発電の普及に関する事

埼玉県 5 か年計画における位置付け



○県政運営の基礎となる計画

○目指すべき将来像と今後取り組むべき
施策を明らかにしたもの

○計画期間は令和4年度（2022年度）
から令和8年度（2026年度）までの
5 年間

埼玉県 5 年計画における位置付け

1 全体計画の体系

2040年には全国の高齢者人口がピークとなるなど、大きな社会の変化や多くの課題が見込まれています。「12の針路」とは、そうした先の見えない将来に向けて、政策分野ごとに本県の進むべき方向を示し、的確な施策の展開につなげるものです。

将来像	全 体 計 画	
	1 2 の 針 路	分 野 別 施 策
安心・安全の追究 ~Resilience~	1 災害・危機に強い埼玉の構築	①危機管理・防災体制の再構築 ②大地震に備えたまちづくり ③治水・治山対策の推進 ④感染症対策の強化
	2 県民の暮らしの安心確保	⑤防犯対策の推進と捜査活動の強化 ⑥交通安全対策の推進 ⑦消費者被害の防止 ⑧食の安全・安心の確保 ⑨安全な水の安定供給と健全な水循環の推進 ⑩生活の安心支援
誰もが輝く社会 ~Empowerment~	3 介護・医療体制の充実	⑪地域で高齢者が安心して暮らせる社会づくり ⑫介護人材の確保・定着対策の推進 ⑬地域医療体制の充実 ⑭医師・看護師確保対策の推進 ⑮医薬品などの適正使用の推進
	4 子育てに希望が持てる社会の実現	⑯きめ細かな少子化対策の推進 ⑰子育て支援の充実 ⑱児童虐待防止・社会的養育の充実
	5 未来を創る子供たちの育成	⑲確かな学力と自立する力の育成 ⑳豊かな心と健やかな体の育成 ㉑多様なニーズに対応した教育の推進 ㉒質の高い学校教育の推進 ㉓私学教育の振興 ㉔家庭・地域の教育力の向上
	6 人生100年を見据えたシニア活躍の推進	㉕生涯を通じた健康の確保 ㉖生涯にわたる学びの推進 ㉗高齢者の活躍支援
	7 誰もが活躍し共に生きる社会の実現	㉘就業支援と雇用環境の改善 ㉙女性の活躍推進と男女共同参画の推進 ㉚障害者の自立・生活支援 ㉛人権の尊重
	8 支え合い魅力あふれる地域社会の構築	㉜多文化共生と国際交流のSAITAMAづくり ㉝地域の魅力創造発信と観光振興 ㉞文化芸術の振興 ㉟スポーツの振興 ㊱デジタル技術を活用した県民の利便性の向上 ㊲多様な主体による地域社会づくり
持続可能な成長 ~Sustainability~	9 未来を見据えた社会基盤の創造	㊳住み続けられるまちづくり ㊴埼玉の価値を高める公共交通網の充実 ㊵埼玉の活力を高める道路ネットワークの構築
	10 豊かな自然と共生する社会の実現	㊶みどりの保全と創出 ㊷恵み豊かな川との共生 ㊸生物多様性の保全 ㊹活力ある農山村の創造 ㊺資源の有効利用と廃棄物の適正処理の推進 ㊻地球環境に優しい社会づくり ㊼公害のない安全な地域環境の確保
	11 稼げる力の向上	㊽新たな産業の育成と企業誘致の推進 ㊾変化に向き合う中小企業・小規模事業者の支援 ㊿商業・サービス産業の育成 ①産業人材の確保・育成
	12 儲かる農林業の推進	②農業の担い手育成と生産基盤の強化 ③強みを生かした収益力ある農業の確立 ④林業の生産性向上と県産木材の利用拡大

埼玉県 5 年計画における位置付け



施策 38 住み続けられるまちづくり

担当部署 企画財政部、環境部、県土整備部、都市整備部

施策内容

人口減少、少子高齢化の進行などを背景に、中心市街地の衰退や都市の低密度化が進むことによる地域活力の低下が懸念されています。

持続可能で住み続けられるまちの実現のため、都市機能の集積や居住機能の誘導に向けた効率的なまちづくりや、「埼玉版スーパー・シティプロジェクト」として、コンパクト・スマート・レジリエントの要素を踏まえたまちづくりに市町村や民間企業などと共に取り組みます。

景観や女性住居・利便性向上に配慮した都市基盤を整備し、商業地などの都市機能が適切に配置された、誰もが暮らしやすく魅力あるまちづくりを進めます。

また、近年、顕在化している空き家問題などに対する取組を進めます。



市街地再開発事業前（蕨田市）



市街地再開発事業後（蕨田市）

主な取組

埼玉版スーパー・シティプロジェクトの推進

- 都市計画の発議や計画的な土地利用の促進
- 立地適正化計画*作成の支援
- 「バスまちスポット」*などの展開による出歩きやすいまちづくりの促進
- 流域治水*への転換に伴う水災害リスクに備えたまちづくりのための浸水想定区域等の活用（施策3にも記載）
- 職住が近接した地域づくりの誘導
- 良好な景観を生かしたまちづくりの推進（施策33にも記載）
- コージェネレーションシステム*や燃料電池*によるエネルギーの効率的利用（施策46にも記載）

- 幅の広い歩道の整備や歩行空間のバリアフリー化
- 快適で楽しい公園空間の提供
- 米軍基地跡地の有効利用
- 安全な市街地を形成する土地画整理事業*や市街地再開発事業*の実施と促進（施策2にも記載）
- 市町村の空き家対策支援
- 空き家などの中古住宅流通・住み替えや住宅リフォームの促進
- 管理組合運営の支援など民間マンション管理の適正化

*埼玉版スーパー・シティプロジェクト：コンパクト（必要な機能が集積しゆとりある魅力的な拠点を構築）、スマート（新たな技術の活用などによる先進的な共同の実現）、レジリエント（誰もが暮らし続けられる持続可能な地域を形成）の要素を踏まえたまちづくりに市町村や民間企業等と共に取り組むもの。

*立地適正化計画：人口減少社会に対応したコンパクトシティを実現するためのマスタープランであり、市町村が必要に応じて策定する計画。持続可能なまちづくりに向け、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の様々な都市機能を誘導するもの。

*バスまちスポット：バス停留所の近くで、バスを気軽に待てる施設として、店舗や公共施設、病院等を登録する制度。バスの時刻表の掲示・配布のほか、施設により様々なサービスを提供している。

施策指標

良好な都市基盤が整備された面積

都市整備部

20,416ha（令和2年度末） ▶ 20,942ha（令和8年度末）

指標の説明

土地画整理事業、市街地再開発事業により、良好な都市基盤（住宅地や商業地）が整備され、災害対応力が向上した土地の面積。
良好な都市基盤の整備が住み続けられるまちづくりに寄与できることから、この指標を選定。

指標の根拠

各事業主体が令和8年度までに予定している住宅地や商業地の整備を着実に推進することを旨とし、目標値を設定。

埼玉版スーパー・シティプロジェクトに取り組む市町村数

環境部

0市町村（令和2年度末） ▶ 46市町村（令和8年度末）

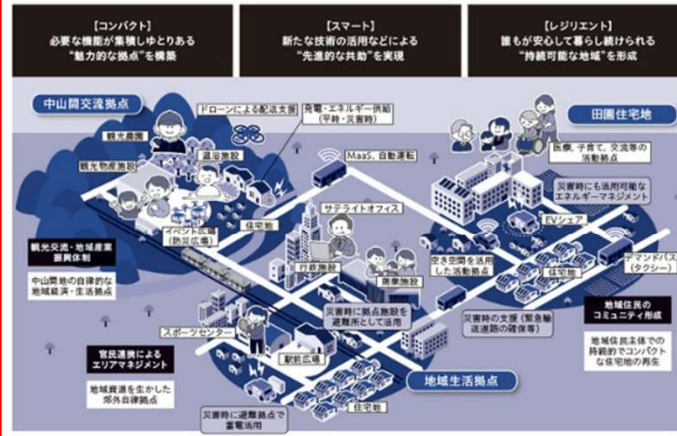
指標の説明

「埼玉版スーパー・シティプロジェクトの基本的な考え方（骨格）」に基づくまちづくりの検討に着手した市町村の数。
超少子高齢社会の課題に対応するため、まちづくりを市町村とともに進める必要があり、その主体は市町村であることから、この指標を選定。

指標の根拠

令和3年度に実施した市町村意向調査で取組意向を示した市町村において、プロジェクトに基づくまちづくりが進むことを目指し、目標値を設定。

埼玉版スーパー・シティプロジェクトにおけるまちづくりのイメージ



*流域治水：気候変動の影響による水災害の激化・頻発等を踏まえ、堤防の整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、集水域から冠水域にわたる流域にわたるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方。

*コージェネレーションシステム：都市ガス、石油、LPGなどを燃料として、エンジン、タービン、燃料電池などの方式により発電し、その際に生じる廃熱も同時に回収・利用するシステム。回収した廃熱を利用することにより、エネルギー効率が高くなる。

*燃料電池：燃料である水素と酸化剤を外から供給しつづつ反応させて電気を取り出すタイプの電池。燃料電池の用途は幅広い。燃料電池自動車から家庭用の燃料電池。更には移動体用途として、バス、船等がある。

*土地画整理事業：一定のエリアで、道路、公園、河川等の公共施設を一体的に整備・改善し、土地の区画を整理した土地利用の推進を図る事業。

*市街地再開発事業：老朽木造建築物が密集した市街地において、細分化された敷地を統合して不燃化された共同建築物に建て替え、駅前広場、公園、街路等の公共施設の整備を行うことにより、高度利用が図られた快適で安全なまちに改善する事業。

埼玉版スーパー・シティプロジェクトとは

コンパクト（必要な機能が集積しゆとりある魅力的な拠点を構築）、**スマート**（新たな技術の活用などによる先進的な共助の実現）、**レジリエント**（誰もが暮らし続けられる持続可能な地域を形成）**の要素を踏まえたまちづくりを市町村や民間企業等と共に取り組むもの**

「埼玉県5か年計画」より

国における都市計画の最近の動向

都市が抱える課題

都市を取り巻く状況

- 人口減少・高齢者の増加
- 拡散した市街地



■ 都市の生活を支える機能の低下

- 医療・福祉・商業等の生活サービスの維持が困難に
- 公共交通ネットワークの縮小・サービス水準の低下

■ 地域経済の衰退

- 地域の産業の停滞、企業の撤退
- 中心市街地の衰退、低未利用地や空き店舗の増加

■ 厳しい財政状況

- 社会保障費の増加
- インフラの老朽化への対応

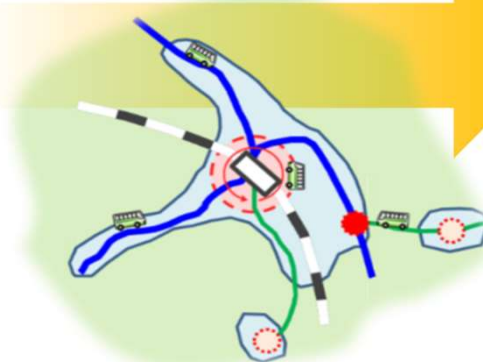
コンパクトシティ

生活サービス機能と居住を集約・誘導し、人口を集積

+

ネットワーク

まちづくりと連携した公共交通ネットワークの再構築



中心拠点や生活拠点が
利便性の高い公共交通で結ばれた
多極ネットワーク型コンパクトシティ

コンパクトシティ化による効果の例

生活利便性の維持・向上等

- 生活サービス機能の維持
- 生活サービス施設へのアクセス確保など利用環境の向上
- 高齢者の社会参画
→ 高齢者や子育て世代が安心・快適に生活できる都市環境

地域経済の活性化

- サービス産業の生産性向上、投資誘発
- 外出機会・滞在時間の増加による消費拡大
→ ビジネス環境の維持・向上により地域の「稼ぐ力」に寄与

行政コストの削減等

- インフラの維持管理の合理化
- 行政サービスの効率化
- 地価の維持・固定資産税収の確保
- 健康増進による社会保障費の抑制
→ 財政面でも持続可能な都市経営

地球環境への負荷の低減

- エネルギーの効率的利用
- CO2排出量の削減
→ 低炭素型の都市構造の実現

➤ 必要な機能の誘導・集約に向けた市町村の取組を推進するため、**計画の作成・実施を予算措置等で支援**（立地適正化計画、地域公共交通計画）

埼玉版スーパー・シティプロジェクトの推進

少子化や急速な高齢化に伴う本格的な人口減少社会が到来

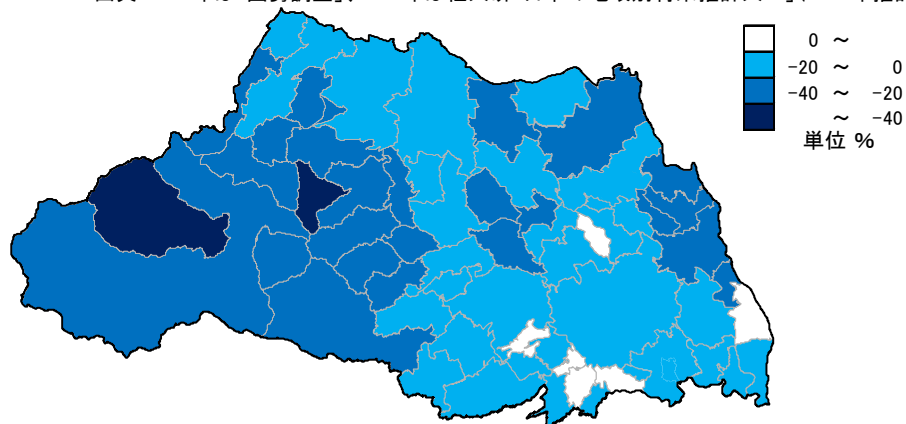
人口減少

約734万人 (2020) ⇒ 約672万人 (2040)

後期高齢者の増加

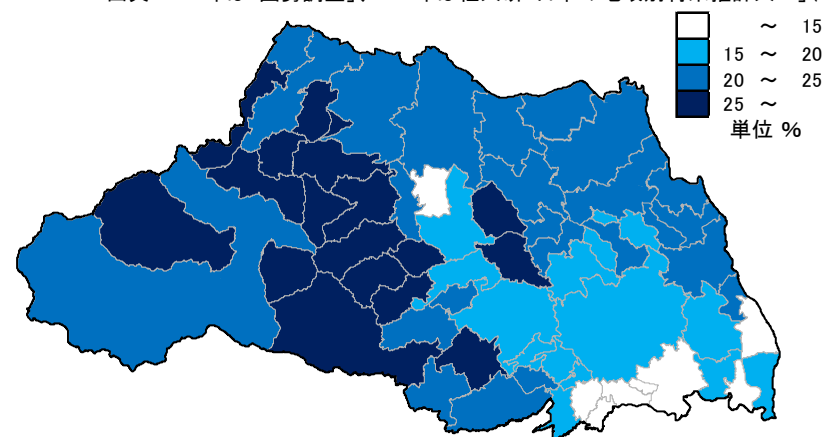
13.5% (2020) ⇒ 18.5% (2040)

出典: 2020年は「国勢調査」、2040年は社人研「日本の地域別将来推計人口」(2018年推計)



《人口増減率(2020年→2040年)》

出典: 2020年は「国勢調査」、2040年は社人研「日本の地域別将来推計人口」(2018年推計)



《後期高齢者の割合(2040年)》

都市機能の
低下

地域経済の
衰退

厳しい
財政運営

インフラ更新が
困難

災害の
激甚化・頻発化

持続可能でコンパクトなまちづくりを進め、日本一暮らしやすい埼玉県へ

埼玉版スーパー・シティプロジェクトの背景

立地適正化計画の作成をはじめとするコンパクトなまちづくりの取組は、平成26年の改正法施行後5年を経過するが、厳しい財政事情や人材・ノウハウの不足等を背景として、全ての地域で進んでいるとは言い難いのが現状である。

令和3年3月策定「埼玉版スーパー・シティプロジェクトの基本的な考え方（骨格）」より

埼玉版スーパー・シティプロジェクトのコンセプト

超少子高齢社会を見据え、県内各地の特性を生かし、県民一人一人が支え合って日常生活を心豊かで安心・快適に暮らせる持続可能なまちをつくり、「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現に資する。

「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現



必要な機能が集積し
ゆとりある“魅力的な拠点”を構築
【コンパクト】

誰もが安心して暮らし続けられる
“持続可能な地域”を形成
【レジリエント】

新たな技術の活用などによる
“先進的な共助”を実現
【スマート】

埼玉版スーパー・シティプロジェクトのコンセプト

市町村のコンパクト、スマート、レジリエントの3つの要素兼ね備えたまちづくりを県が支援

コンパクト

【取組例】

- ・医療、福祉、交流等の複合拠点を整備し、歩いて暮らせるまちづくりを促進
- ・空き公共施設や空き家を活用した地域の交流拠点の整備運営

スマート

【取組例】

- ・生活利便性を高めるMaaSやデマンド交通の提供
- ・オンライン診療を活用した医療支援
- ・自動配送ロボットやドローンによる配送支援

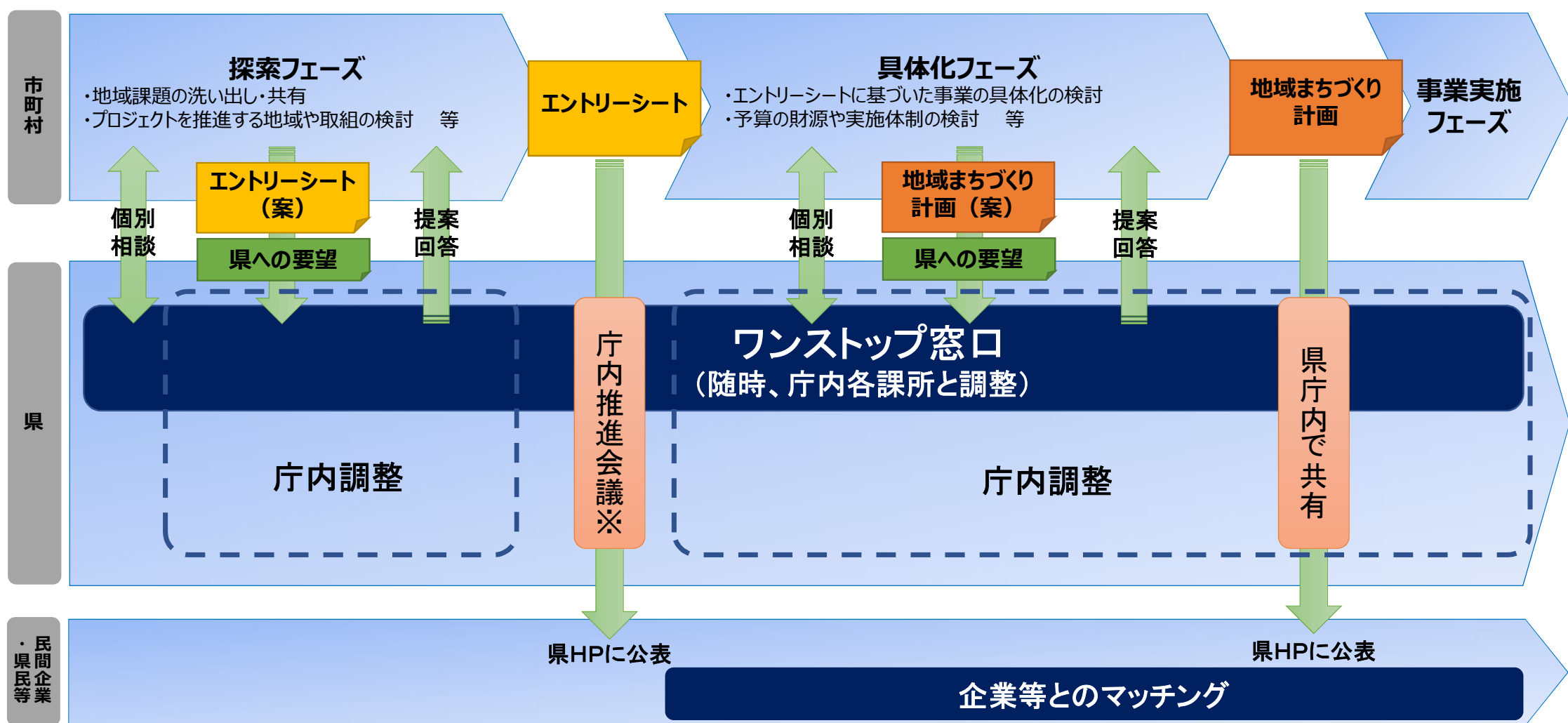
レジリエント

【取組例】

- ・再生可能エネルギーの導入や蓄電池の活用等、災害時でもエネルギーが途絶えない仕組みの構築
- ・エリアマネジメント組織による地域交流拠点を活用した健康相談、介護予防、多世代交流



埼玉版スーパー・シティプロジェクトの進め方フロー



※庁内推進会議は、知事を筆頭に全部局長で構成し、プロジェクトを総合的、効果的に推進するために設置している会議です。
 当会議にエントリーシートを諮ることで、各市町村が取り組むプロジェクトに係る取組を共有し、県が主体となる事業においても生かしていくことを目的としています。

市町村のエントリー状況

- 合計29団体（県内市町村の46%）がエントリー済み。
- 未エントリー団体に対しては、県のワンストップ窓口(県エネルギー環境課)がエントリーに向けた個別相談に対応し、伴走型支援を実施。

令和3年度エントリー団体

11
団体

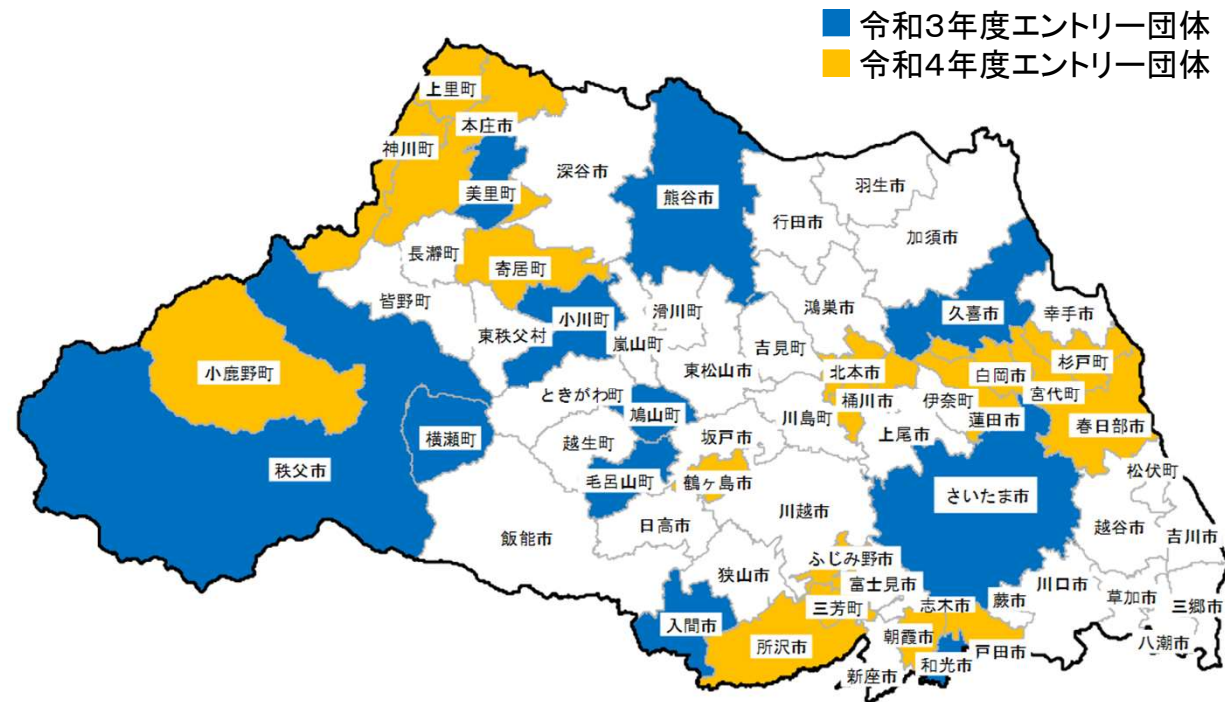
さいたま市、熊谷市、秩父市、入間市、
和光市、久喜市、毛呂山町、小川町、
鳩山町、横瀬町、美里町

+

令和4年度エントリー団体

18
団体

所沢市、本庄市、春日部市、戸田市、
朝霞市、桶川市、北本市、蓮田市、
鶴ヶ島市、ふじみ野市、白岡市、
三芳町、小鹿野町、神川町、上里町、
寄居町、宮代町、杉戸町



各団体の特徴的な取組

さいたま市 スマートシティさいたまモデルの推進

- **災害時もエネルギーが途絶えないまちの構築**
⇒ 太陽光パネルと共用蓄電池・EVによる街区全体でのエネルギーマネジメントを構築し、災害時の電源確保を実現



レジリエント

入間市 入間市版スーパーシティ構想

- **EV活用再生可能エネルギーマネジメントの導入**
⇒ 市役所にPPAによる太陽光発電を整備し、民間事業者所有のEVを平日昼間は役所が利用し、休日・祝日等は一般利用する形でシェア



レジリエント

熊谷市 熊谷スマートシティ

- **スポーツを核とした魅力向上によるまちなかの活性化**
⇒ 熊谷駅・熊谷スポーツ文化公園等の市内移動の円滑化とともに、まちあるきアプリ普及によるまちなかの回遊性向上



コンパクト

和光市 和光市版スーパーシティ構想

- **和光版MaaSによる最適な移動手段の提供**
⇒ 拠点間を結ぶ自動運転サービスの導入や和光版MaaSにより公共交通ネットワークを連結させ各拠点を有機的に結び交通利便性を向上



スマート

秩父市 秩父市移動支援プロジェクト～未来へ紡ぐ結いまち～

- **物流網の維持向上による快適な社会の実現**
⇒ 山間地域を対象とした共同配送や貨客混載、ドローン等の技術を組み合わせ生活インフラの維持・向上を目指す



スマート

久喜市 南栗橋8丁目周辺地区のまちづくり～BRIDGE LIFE Platform構想～

- **次世代モビリティの実証実験**
⇒ AIやICTなどの先端技術を活用し、自動配送ロボット等の実証実験を進めていき、将来的な社会実装につなげていく



スマート

各団体の特徴的な取組

毛呂山町 毛呂山町版スーパーシティ構想

コンパクト

➤ 都市公園における地域交流活性化

- ⇒ 地域の大学と連携し、町内の都市公園等を拠点とした地域の交流及び活性化により賑わいを創出



都市公園の利活用

横瀬町 「カラフルタウン」横瀬町における賑わいづくり中心地づくりプロジェクト

コンパクト

➤ 町内遊休資産を活用した賑わい・中心地づくり

- ⇒ JAI旧直売所跡地を利活用した、コミュニティ・イベントスペース「エリア898」で地域の人たちのアイデアによる魅力的な空間づくりを推進



エリア898

小川町 小川町版スーパー・シティプロジェクト～安心・安全な暮らしの実現～

コンパクト

➤ 地域住宅団地の再生事業

- ⇒ 東小川住宅団地内の学校跡地へ必要な都市機能を誘導し、域外企業や地域住民が集う拠点を整備



小・中学校跡地の活用イメージ

美里町 美里 Super Town プロジェクト

コンパクト

➤ 中心拠点における“美力”的な拠点構築

- ⇒ 買物や食事、医療、交流等の日常生活に必要な都市機能の集約及び官民連携による地域経済の活性化



拠点イメージ

鳩山町 鳩山NT版コンパクトシティ+ネットワークプラン 複合施設を核とした地域拠点の構築

コンパクト

➤ 複合施設を核としたニュータウン再生

- ⇒ 町が複合施設の指定管理者と連携して高齢化が進むニュータウンにおいて空き家の活用等により賑わいを創出



鳩山町コミュニティ・マルシェ

各団体の特徴的な取組

所沢市 スマート ゼロカーボンスーパーシティ所沢・GXイニシアティブプロジェクト

➤ 都市交通や移動におけるエコ・スマート化

- ⇒ 各拠点間の公共交通ネットワークの強化・充実（EV、MaaS等）やEVシェアリング等のエコモビリティの導入促進



戸田市 スマート みんな輝く未来共創のまち とだ スーパーシティ構想

➤ 官民連携による医療MaaSの実証実験

- ⇒ オンライン診療システムと医療機器を搭載した車両で患者宅を訪問し、病院の医師とつなぐ医療MaaS実証実験を実施



本庄市 コンパクト 3駅から始まる本庄版スーパー・シティプロジェクト

➤ 訪れたいくなるまちなかの形成

- ⇒ 歴史的・文化的資源等、まちなかに残る様々な魅力を活用した、訪れたいくなる、ウォーカブルなまちづくりの推進



朝霞市 コンパクト 朝霞市版スーパー・シティプロジェクト

➤ 人と緑が生きるウォーカブルなまちづくり

- ⇒ 歩行者中心の道路空間の再整備、緑の拠点であるシンボルロードや水辺空間を活用した賑わいの創出



春日部市 コンパクト 春日部市版スーパー・シティプロジェクト

➤ 既成市街地の再生と新市街地の創出

- ⇒ 既成市街地の再開発及び駅周辺の新たな宅地開発により、都市機能を集積し、選ばれるまちづくりを推進



桶川市 レジリエント 桶川版スーパーシティ：コンパクト・プラス・ネットワーク

➤ 道の駅「(仮称)おけがわ」の整備

- ⇒ 地域の魅力や情報を発信し、人々が交流する新たな憩いの場、広域防災拠点として整備



各団体の特徴的な取組

北本市 北本市版スーパー・シティプロジェクト

北本団地活性化プロジェクト

- ⇒ 市と民間事業者4社が連携して高齢化・少子化が進む住宅団地を再生し、地域の賑わいを創出



官民連携による
イベント開催

コンパクト

ふじみ野市 ふじみ野市版スーパー・シティ構想

文化施設整備に伴うコミュニティの醸成

- ⇒ 東西に文化施設を整備し、人と人とのつながりづくりの場を提供。太陽光発電等を活用し、レジリエンスを向上



文化施設整備イメージ

コンパクト

蓮田市 中心市街地のウォーカブルまちづくり

歩いて暮らせる中心市街地の構築

- ⇒ 再開発事業にあわせて整備した複合拠点を核として、まちなか拠点間の回遊性の向上を図るウォーカブルなまちづくりを推進



複合拠点
(プレックス蓮田)

コンパクト

白岡市 新白岡スーパー・シティプロジェクト-新白岡2.0-

住民主体型エリアマネジメントの導入

- ⇒ 住民等が主体となった、地域交流の促進や公共空間の活用等によるまちづくりに取り組むことで、地域の持続可能な発展を目指す



住民向け勉強会の様子

コンパクト

鶴ヶ島市 歩いて行ける市民センターを拠点としたまちづくり

図書館スマート化、市民センター機能充実

- ⇒ 市民センターを拠点としたまちづくり推進のため、併設の図書館分室のスマート化、太陽光発電設備・蓄電池の導入等により、拠点機能の充実を図る



図書館のスマート化

スマート

三芳町 三芳町版スーパー・シティ構想

施設の複合化等による賑わい創出

- ⇒ 学校・公共施設の複合化による地域交流拠点の整備、農業遺産等を活用した賑わいの創出



学校・公共施設の
複合化イメージ

コンパクト

各団体の特徴的な取組

小鹿野町 レジリエント OGANOおもてなしまちづくりプロジェクト ～文化と自然が香る町小鹿野～

➤ 再生可能エネルギーの活用

- ⇒ 木質バイオマスボイラーや小水力発電、蓄電池の活用により、観光・交流施設のエネルギー自給を目指す



木質バイオマスボイラーによる道の駅への熱供給

寄居町 コンパクト よりいスーパータウンプロジェクト

➤ 中心市街地の魅力向上、にぎわい創出

- ⇒ 歩きたくなるまちを目指し、駅前拠点施設「Yottēcō」と広場を活用した中心市街地の活性化・にぎわい創出



駅前拠点施設

神川町 スマート コンパクトな町でフレキシブルに暮らす

➤ スマート物流の導入

- ⇒ ドローン等を活用したスマート物流の導入により、日用品等の配送、災害時の物資輸送を実現し、安心・安全な暮らしを確保



ドローン輸送イメージ

宮代町 スマート 宮代版スーパー・シティ構想

➤ スマート農業の導入検討

- ⇒ 「農」をテーマとする施設『新しい村』を中心として、スマート農業の実証事業等を実施



「新しい村」

上里町 コンパクト 「ひと・もの・しごと・情報」が行き交うハーモニータウン上里

➤ 賑わいある拠点形成とコンパクトなまちづくり

- ⇒ 駅周辺の中心拠点と上里サービスエリア周辺の観光・交流拠点を整備するとともに、空き家・空き地を活用して賑わいを創出



駅周辺の整備イメージ

杉戸町 コンパクト 杉戸町版スーパーシティプロジェクト

➤ 東武動物公園駅東口の賑わい創出

- ⇒ 東口通り線周辺のウォークラブルなまちづくりに加え、小学校跡地に認可保育所や公園、コミュニティセンター等を整備



小学校跡地活用イメージ

主な支援の内容

【1】市町村事業化支援チームによる支援

- プロジェクト参加市町村ごとに県関係課で構成する事業化支援チームを編成し、プロジェクトの具体化を支援
- ワンストップ窓口(県エネルギー環境課) が一括して市町村の相談に対応

【2】プロジェクト推進補助金による財政支援

- プロジェクトに基づくまちづくりについて、検討等を支援する①事業化検討補助と、事業実施をソフト・ハードの両面から支援する②事業推進補助により財政的に支援

(令和5年度予算 3億700万円【拡充】)

<令和4年度活用例>

- ・データ利活用調査 (熊谷市)
- ・賑わい創出拠点整備のための調査事業 (横瀬町)
- ・学校跡地再編関連事業 (小川町)

【3】まちづくりに関する技術支援

- 市町村の状況に応じたオーダーメイド型支援
 - ・ウォーカブルなまちづくりや市街地開発事業などの都市整備手法に関する技術面での助言・提案を実施
- 先行事例の研修会
 - ・市町村の担当者向けに、まちづくりに関する先行的な取組を視察する研修会等を実施



先進事例の研修会

会

【4】企業とのマッチング支援

- 応援企業等登録制度 (令和5年11月末現在: 142)
 - ・市町村と連携・協働してまちづくりを推進する意思がある企業・団体を登録し、県が市町村とのマッチングを実施
- 市町村と企業との交流会
 - ・マッチングを促進する県主催の交流会の開催
- ガバメントピッチの開催【新規】
 - ・市町村が地域課題をプレゼン、企業等から課題解決策を提案するガバメントピッチを開催し、両者のマッチングを強化



市町村と企業等の交流会

市町村と企業等とのマッチング支援

埼玉版スーパー・シティプロジェクト応援企業等登録制度

応援企業等登録数 142 (R5年11月末現在)



登録 メリット

- ◆ 応援企業等が貢献できる取組・サービスについて、県がホームページで発信
- ◆ まちづくりのニーズに応じて、県が市町村と応援企業等とをマッチング
- ◆ 市町村と企業等との交流会など県がイベントを開催

ガバメントピッチの開催

市町村が抱える課題について、企業等が課題解決策を提案するガバメントピッチを開催し、両者のマッチングを強化

官民連携による持続可能なまちづくりを推進し、日本一暮らしやすい埼玉へ

一般行政職の主な仕事内容

- ワンストップ窓口として市町村職員からの相談対応
- プロジェクトに関する庁内関係各課との打合せ開催
- 市町村訪問や市町村説明会によるプロジェクトの説明
- 補助事業に係る相談・申請受付、書類審査などの交付事務
- 応援企業等の募集や市町村とのマッチング支援
(ガバメントピッチや交流会などのイベント開催等)
- 新規事業の企画立案、次年度予算要求事務
- 先進事例の視察やセミナーの受講などへの参加

ある日のスケジュール（説明者（主査））

時 間	内 容
7 : 4 5	登庁（育児のため時差出勤） メール、スケジュールチェック
8 : 0 0	会議準備（資料確認、問い合わせ対応）
9 : 3 0	庁内会議（Zoomでのホスト業務）
1 0 : 3 0	会議議事録の作成（音声テキスト化の依頼、内容確認）
1 2 : 0 0	昼休み（自席で昼食後、読書）
1 3 : 0 0	県庁内関係課と打合せ（まちづくりの方向性について）
1 5 : 0 0	市町村と打合せ（まちづくりの方向性について）
1 6 : 3 0	退庁（子供のお迎えにも間に合います！）

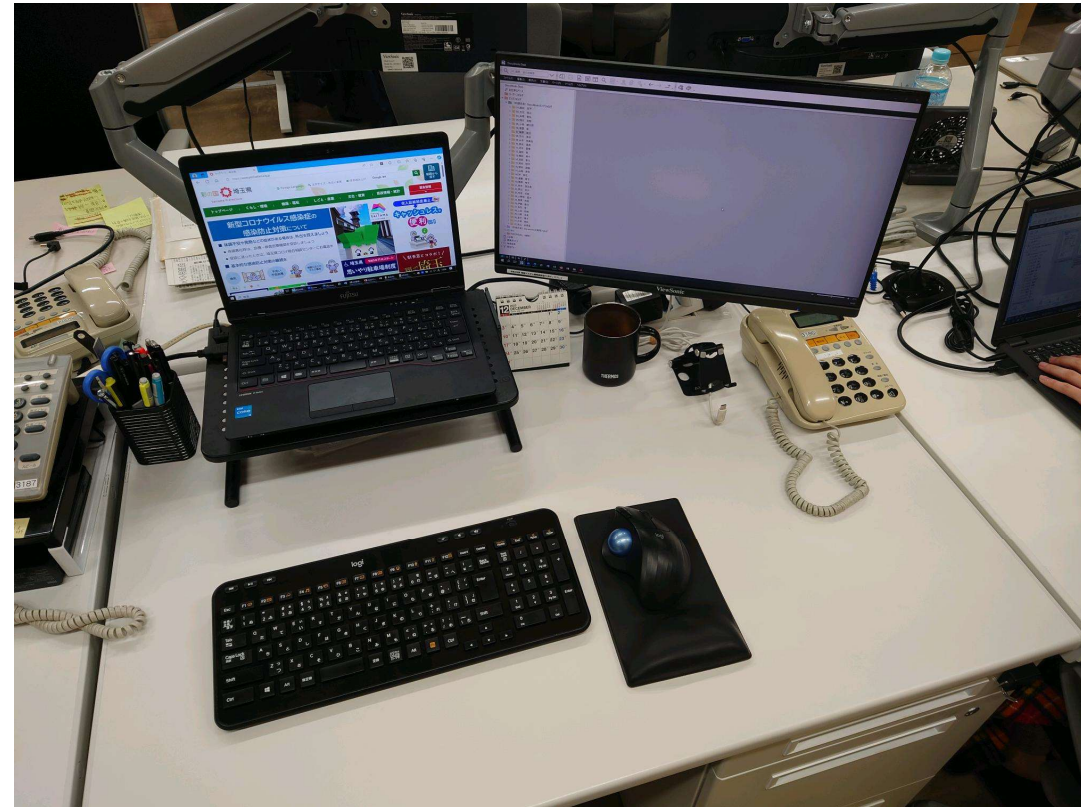
ある日のスケジュール（説明者（主事））

時 間	内 容
8 : 3 0	勤務開始（テレワーク） メール、スケジュールチェック
9 : 0 0	市町村と企業との打合せに参加
1 0 : 0 0	説明資料の作成（応援企業等登録制度について）
1 1 : 0 0	担当市町村について情報収集
1 2 : 0 0	昼休み（自宅周辺で昼食）
1 3 : 0 0	イベント参加のため都内に出張
）	イベント会場で企業の方々とディスカッション、情報収集
1 7 : 1 5	勤務終了

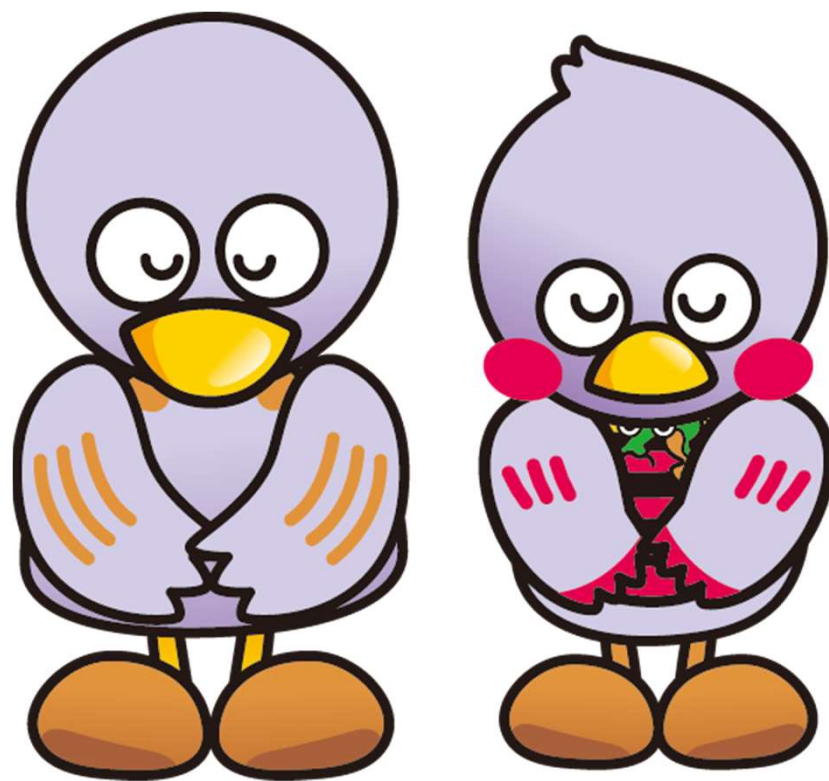
執務環境



打合せ風景



デスクの様子



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」